



学校だより

12月号

石川小学校 学校教育目標
育てます。「石川魂」

令和2年11月30日
横浜市立石川小学校
校長 寺園 淳

子どもが体験学習から学ぶ

校長 寺園 淳

寒暖の差が大きくなり、校庭の木々も緑から赤や黄色に衣替えが進んでいます。季節が進む中でも変わらず、元気よく過ごしているのが石川の子どもたちです。

11月9日、4年生の宿泊体験学習が無事に終了しました。「上GOGO」を合言葉に準備を進め、活動を楽しむことができました。私もキャンドルファイヤーの様子を一目見ようと、「上郷森の家」まで足を運びました。会場から響いてくる歓声に子どもたちの様子を想像することは容易いことでした。扉を開くと、そこには子どもたちと教師が一体となってファイヤーを楽しんでいる姿が飛び込んできました。4年生らしいエネルギーに頼もしさを感じました。

今年、本校では体験学習を通して新しい「つながり」が生まれました。それは上の学年がそれぞれの体験学習で学んだことを、下の学年に取り組むときの心構えなどをアドバイスしていくことです。6年生から5年生へ、5年生から4年生へ。4年生は来年5年生になったとき、今まで自分たちが経験したことを伝えてくれるでしょう。また、体験学習出発前に意気込みを、そして終えてからは自分たちの成長ぶりを朝会で発表しました。4年生は「一生懸命に取り組むことで4年生が一つになれました。」（前田笑葉さん）「5年生から話を聞くことができ、おかげで上郷が成功することができ、良かったです。」（前川隆良さん）と伝えていました。どの学年も自分たちの成長ぶりを発表する姿は堂々と自信に満ちたものでした。

個別支援級の子どもたちは、横浜美術館で行われている「子どものアトリエ（絵具体験）」に参加してきました。個別支援級は例年、南区の小学校が合同で主催する宿泊学習に参加してきましたが、本年度は新型コロナウイルスの影響により中止となりました。その代わりに学校独自の遠足として実施しました。美術館までは路線バスに乗っていきました。公共の交通機関を使うことも学習の一つです。多くのお客さんがいる中で、子どもたちのマナーよく乗車している姿は、校長としてとても嬉しく思いました。美術館に着くとそこで子どもたちを待っていたのは、壁や床一面に貼られた大きな画用紙です。一人ひとりが好きな色を選び、思い思いに筆を走らせ、作品を仕上げていきました。造形活動を全身で楽しんでいる子どもたちの姿は、とても生き生きとしていました。活動を終え、振り返りの場面で1年生の茨田慧藏さんが「学校では経験できないことができて、とても楽しかったです。」と述べていたことが印象的でした。

これらの姿は、子ども自身が体験学習を行う意義を学んでいる成果だと考えます。私は校長として、この石川の子どもたちを誇りに思います。

